



中の
川よ
荒だ

青い雲



教育目標

「めあてをもち 自分で考え ねばり強くやり抜こう」
目指す学校像：「あいさつ がまん あとしまつ ができる生徒」

村上市立荒川中学校
令和5年度第2号
令和5年5月12日発行

学習と諸活動に力を注ぐ季節

生徒玄関先の赤いツツジが鮮やかに咲いて、さわやかな季節となりました。先月末、三年ぶりに行われた授業参観、PTA総会では、ご多用のところ大勢の保護者の皆様においでいただきました。生徒が真剣に学んでいる授業参観は、どの教室も保護者の皆様が入りきれないほどでした。その様子から「学校に寄せる期待」を強く受け取りました。これからも全職員、ご期待に沿えるよう一生懸命に取り組みます。

参観日の午前中には全校生徒が「荒川クリーン作戦」に参加しました。てるてる坊主をたくさん吊して、楽しみにしていた学級もありました。終了後に「自然を楽しみながら、地域に貢献できてよかった。」という生徒の声がありました。この活動に本校が参加して、十年となりました。のべ三千名の荒中生徒が参加し、よき伝統となりました。主催者である「清流」荒川を考える流域ワークショップ代表の 様から、生徒への感謝の言葉と「SDGsの精神で、どこでも人のために、地域のために行動してほしい」という激励をいただきました。また、生徒はクリーン作戦のお礼として、毎年白く涼しい素材の「ARAKAWA帽子」を頂戴しています。これから暑くなる夏場に、体育の授業や校外活動、体育祭などで使わせていただきます。

校長 渡辺 安治

今年も地域連携活動でお世話になっている「あらかわ地区まちづくり協議会」の通常総会を見学しました。理事長様から「昨夏の豪雨災害により、街づくり計画が思うようにできませんでしたが、各部会は意欲的に活動していました。」とあいさつがありました。役員の方々からは三部会（事業部会、育成部会、支援・情報部会）の事業報告がありました。私たちの地域と連携した取組「あらかわチャレンジ」も紹介されました。豪雨災害のために中学生が予定していた活動はできませんでしたが、生徒の活動を献身的に支えてくださった皆様にあらためて感謝します。村上市民憲章の精神に基づき、まちづくり協議会の前向きな方針、総会での建設的な発言、自然災害の状況に応じた活動の選択と予算執行など、たくさん学ばせていただきました。

五月八日以降、当校では「コロナ前に戻すものは何か」「戻さずに、新たな形にしてよいものは何か」を皆で考えています。それらを地域の方々や保護者の皆様方と共に、生徒の健やかな成長という視点で探っていきたいと思います。これからも、ご協力をよろしくお願ひします。